

## 国連エネルギー・ハイレベル対話

鷲尾副大臣挨拶

(和文仮訳)

本会合の開催を可能としたグテーレス事務総長のリーダーシップを賞賛し、関係者の努力に感謝申し上げます。

新型コロナの感染拡大により、エネルギーを含む社会サービスの安定供給における様々な課題が明らかとなり、特に脆弱な人々への影響は深刻です。2030年までのSDGs達成は、さらに遠ざかっているのが現状です。

SDG7が掲げるエネルギー・アクセスの確保は、コロナ禍からの持続可能な開発と経済成長を実現するため、また、人間の安全保障の実現の観点からも重要です。しかしながら、寧ろエネルギー・アクセスへの格差は拡大しており、また、エネルギー貧困の問題は、発展の途上にある国に限られるものでもありません。

SDG7達成には、安価なエネルギーを確保することが重要ですが、安価さに拘るあまり、信頼性と持続可能性が蔑ろにされてはなりません。即ち、バランスのとれた取組が必要であり、また、エネルギーをめぐる事情は国や地域によって様々であることから、それに応じた対応が不可欠です。

SDG7達成の道のりは、皆同じ山頂を目指す登山に似ています。各々が地図を見ながら、最適な経路を事前に検討していくことが必要であり、採るべき経路は各々異なり、各々の体に合った装備も欠かせません。

日本は、各国が選択した経路を着実に歩めるよう、技術とイノベーションで様々な手段を提供し、各国のSDG7達成を後押ししてまいります。その際には、現場の声に耳を傾けること、共に協力することを大切にします。

日本企業の取組みを1つご紹介します。フィリピンの島嶼部の様に台風の襲来が多い地域は、再エネによる安定した電力供給が課題となっています。

そこで、強風下でも安定して発電できる技術として開発された、プロペラのない「マグナス風車」と呼ばれる風力発電の導入が進んでおります。これは持続可能なエネルギー・アクセスとエネルギーの地産地消を実現する事例です。

行動の10年に入り、早急な具体的行動が必要な一方、早急すぎて足を踏み外す、ないし遅れる者が出ないような取り組みが重要です。日本は、各国それぞれの要望に応えるSDG7の達成に向け貢献して参ります。ご清聴ありがとうございました。

(了)